



CONTENTS

- 1-トピックス 第117回品質管理シンポジウム 報告
- 2-私の提言 異業種への展開のためさらなる標準化を
- 2-ルポルタージュ 第139回クオリティ・ツールボ
- 3-2024年1月・2月・3月の入会者紹介／論文募集／新規研究会の受付／教員公募
- 4-ANQ Congress Yokohama 開催のご案内／代議員・役員選挙告示／行事案内

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

第117回品質管理シンポジウム 報告

—品質不祥事の防止と真の顧客価値創造、必要な組織能力の議論が展開される！—

(一財) 日本科学技術連盟 品質経営創造センター、デミング賞委員会事務局 部長 安隨 正巳

半世紀を超える歴史を誇る、日科
 技連主催「品質管理シンポジウム」(以
 下 QCS)の第117回は大磯プリンス
 ホテルにて 2024年5月30日～6
 月1日の日程で開催された。「原点回
 帰！品質経営を改めて考える」をテー
 マに、産業界で品質不祥事が断続的
 に発生している状況の中、品質立国
 再生に向けた議論を行った。参加者
 はオンライ
 ンを含め
 800名を超
 える盛況ぶ
 りだったが、
 その模様を
 報告する。



主担当組織委員 棟近雅彦氏

QCSは、①講演②グループ討論・発表
 ③総合討論の3本柱で構成されている。
 今回の講演者は右記の通りであった。
 紙面の制約から講演内容の紹介は割
 愛するが、品質不祥事発生を経てTQM
 活動に注力する企業、コンプライアンス
 の専門家、弁護士など様々な立場の
 登壇者から示唆に富む講演が行われた。
 たった1件の不祥事が顧客や社会の
 信頼を失ってしまう「品質不祥事」
 について、品質経営の原点に立ち返
 り、真の顧客満足を達成するために
 真っ向からの議論を行うことが今回
 の開催趣旨であった。
 産業界は、利潤を追求する活動を
 競争環境の中で行っているため、ど
 のような組織でも常に品質不祥事が
 起こりうるリスクは存在する、とい
 う共通認識の下、グループ討論は、

117QCS 講演者一覧

[5月30日(木)]

「お客様への感動を追求する、『変化し続ける』
 寿司屋のチャレンジ」
 菊水鮓西店 店主 柏木 延浩氏

[6月1日(金)]

■基調講演

「原点復帰！品質経営を改めて考える」
 早稲田大学 理工学術院 教授 棟近 雅彦氏

■講演1

「次の社会へ、信頼のこたえ～川崎重工のグル
 ープビジョン2030とTQM活動」
 川崎重工(株) 代表取締役社長執行役員、
 最高経営責任者 橋本 康彦氏

■講演2

「企業倫理の観点からみた品質不正事案の背景と
 防止策：最近の日本製造業の不祥事から」
 梅津総合研究所(株) 代表取締役 梅津 光弘氏

■講演3

「UBEにおける経営意識改革推進～失敗を機会に～」
 UBE(株) 代表取締役社長
 社長執行役員 泉原 雅人氏

■講演4

「品質不正の防止に向けて」
 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業
 弁護士 木目田 裕氏

品質不祥事に関する8つの切り口か
 らテーマが設置され、最終日には、8
 グループからの討論結果の発表後、
 参加者全体による総合討論が棟近雅
 彦氏の司会で行われた。



総合討論 実施風景

「マイクロマネジメントからの脱
 却」、「人間は弱いものとした組織運
 営」、「大学での教育の必要性」な
 どの興味深い発言もあり、大変白熱し
 た議論となった。

また、主担当組織委員の棟近雅彦
 教授(早稲田大学)が「まとめ」で
 説明した以下の内容は参加者から強
 い共感を呼んでいたで紹介する。

【品質不祥事を防ぐには】

- ①まず自分自身で考える
個人としても、組織としても
- ②品質を中心とする経営を実践する
(例えばTQMというフレームワークを活用して)
品質経営を実践する
- ③牽制機能(監視)
- ④検知・検出機能
①は基盤で、そのもとで②を行うことが最も重要。
③④も重要であり必要だが、「副」でしかない。
※棟近主担当組織委員「まとめに代えて、私が学
んだこと」から引用

今回のまとめ内容は、QCS web
 サイト (<https://www.juse.jp/qcs/>)
 に掲載しているので、是非参照して
 欲しい。

*

次回のQCSは、DMG森精機 森雅
 彦社長が主担当組織委員を務め、テー
 マ「変化に対応する品質経営 ～
 Just in Time+Just in Case～」とし
 て2024年12月5日～7日に開催される。
 「近い将来の予測される変化」に加え、
 国際紛争に伴うサプライチェーンの
 崩壊、輸出規制、自然災害など「予
 測困難な変化」に企業がどのように
 対応していくべきかを議論する。多
 くの会社役員、部門長ならびに学術
 関係者の参加を期待したい。

● 私の提言 ●

異業種への展開のためさらなる標準化を

国立病院機構名古屋医療センター 医療安全管理部・外科 部長
藤田医科大学大学院医学研究科 病院経営学・管理学

安田 あゆ子



医療において品質管理の導入が求められている。医療安全という表現が用いられているが、提供される医療

の質管理、質保証がなされていないことが社会問題となり、医療者による部門設置が2000年代から法律に基づき各医療機関に求められるようになった。当初は患者に起こった負の事象に組織対応するための部署であったが、インシデント報告と呼ばれる不具合事象収集が行われ、抽出された患者の関わる工程に関する課題に対応する役割が大きくなっている。

病気を思い期せずして医療を受ける

ことになった本会所属の読者の皆様は、個々の医療者の温かさに触れるとともに、なぜこのプロセスは標準化されていないのかと疑問に持たれたことがあると思う。日本の病院では、主に欧米の病院から品質管理手法の逆輸入が行われてきた。医療向けに改変され利用しやすくなっている面もあるが、断片的で体系的な理解がしにくい面もある。日本の医療機関は60年ほど前に始まった国民皆保険制度の下で、企業と異なる経営体系を有し、国家資格を持つ専門職が中心の労働集約型サービス業に位置づけられ、組織運営の面では、アメリカの医療機関とも日本の製造業とも様々な相違がある。

筆者は日本の産業界の品質管理を直に学び、教育プログラム実践など試行

を繰り返してきた。同じ文化の中で、日本の品質管理から学べることは多いはずだが、様々な手法等が製造業の現場の例示で語られており、それが医療者にとって移入のしにくさとなっていると感じる。製造業においても、生産だけでなく、企画や販売での品質管理はなされている。サプライチェーンすべてで応用が利く、原則や要素、手法の一般化がさらに進み、全国に約8,000存在する病院、約10万ある診療所、その他歯科診療所や介護施設、在宅医療支援施設などに体系的に導入されることを期待する。製品の部品を取り付ける作業と、ある病気を持った患者に正しい注射を実施する作業に共通の品質管理手法が同定され、学びやすい形で供給されれば、医療現場の改善は加速度的に広まっていくと推察する。そのニーズは筆者が協力するアフリカ諸国における病院機能改善事業においても高まっている。そのために本学会の専門家の知恵をお借りできればと思う。

第139回 クオリティーク ルポ

統計解析アプリを使って 少し楽に行う信頼性 データ解析

2024年2月27日(火)に第139回クオリティーク(東日本)がオンライン開催された。「統計解析アプリを使って少し楽に行う信頼性データ解析」をテーマに遠藤幸一先生(電気通信大学)にご講演をいただいた。

信頼性データとは、故障や寿命に関するデータのことであり、その単位は「時間」であることが多い。こういった信頼性データを解析する代表的な方法にワイブル解析がある。ワイブル解析を行うことによって、初期故障、偶発故障、摩耗故障など故障の型を判定したり、平均寿命を推定したり、ある時間における信頼度や故障確率を予測したりすることができる。このように多くの有用な情報が得られるワイブル解析ではあるが、伝統的には「ワイブル確率紙」にデータをプロットして行う方法が採用されてきた。現在でもワイブル確率紙を使っている方は多いと思うが、パソコン全盛

となった今はエクセルなどでワイブル解析を実施している方が増えてきていると推察する。しかし、ワイブル確率紙やエクセルを使った解析では、ワイブルプロットに直線を当てはめようとしたときに、「直線が折れ曲がる」とか「頭(こうべ)を垂れる曲線になった」ようなときに、その後の対応に苦慮することがある。そのような場面でさらに解析の歩を進めてくれるのが統計解析ソフトウェアである。今回のトークでは、主にSAS社のJMPという統計解析ソフトウェアを使った事例が紹介された。もちろんの解析の裏側にある原理は勉強して知っていなければならないのだが、同ソフトウェアを使って高度な解析を(少し楽に?)行えることは誠に魅力的である。ソフトウェアの操作も直感的で簡単に行える印象を受けた。信頼性の技術者にとっては非常に有用なツールになると思われる。興味を持たれた方は、講師らが執筆した書籍: JMPによる信頼性工学、日本規格協会(2022)を参照されたい。

講演後の質疑応答や意見交換も活発に行われ、大変に有意義な講演会であった。

越水 重臣(東京都立産業技術大学院大学)

2024年1月・2月・3月の 入会者紹介

2024年1月22日の理事会、2024年2月19日の理事会審議および2024年3月27日の理事会において、下記の通り正会員16名、準会員7名、賛助会員3社3口の入会が承認されました。

.....
(正会員16名) ○藤田 元就 (アイシン)
 ○向新 達也 (三井住友ファイナンス & リース) ○梶原 鉄平 (トクヤマ)
 ○江口 美奈子 (NTT東日本関東病院)
 ○鈴木 聡 (アリミノ) ○柿原 安博・杉田 秀則 (ネクスティエレクトロニクス)
 ○近藤 一雄 (トヨタ自動車)
 ○齊野 猛司 (SBカワスミ) ○天野 健一 (イトーキ) ○志田 敬介 (慶應義塾大学) ○国藤 雅人 (トヨタ紡織精工)
 ○岡部 理奈 (中央大学) ○南 茂 尚義 (中外製薬) ○千田 啓互 (アミュール) ○佐々木 康雄 (Pale Blue)

.....
(準会員7名) ○岩崎 安里・松尾 朋響・許 博杰・中山 貴恵 (早稲田大学)
 ○小倉 望・荻野 公平・竹村 瞳治 (電気通信大学)

(賛助会員3社3口)

○AGC ○ネクスティエレクトロニクス ○デンソーテン

名誉会員：24名

正会員：1591名

準会員：56名

職域会員：50名

賛助職域会員：11名

賛助会員：159社231口

公共会員：12口

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主軸とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2024年10月～2025年9月（1年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」（様式204-1）をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、メール添付で本部事務局宛にお送りください。

<https://jsqc.org/studygroupentry/>

申込締切：2024年7月1日(月)必着

申込先：jimukyoku@jsqc.org

研究会の申請と運営：

- 研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界・産業界）を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。
- 研究目的と年間の研究活動計画を作成する。
- 1研究会のメンバーは20人までとする。
- 会場：Zoom会議室

対面の場合は、原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。

- 対面の会議の際、時間は18時～20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。研究会運営費は一人1回当たり1,150円（内訳：通信費・資料代・食事代）。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

教員公募

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科

①統計科学、応用統計学分野

募集人員 教授、教授（テニュアトラック）、准教授、准教授（テニュアトラック）、専任講師、または、講師（テニュアトラック）1名

所属 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科／
創造理工学研究科 経営システム工学専攻

研究分野 統計科学、応用統計学に関連する研究分野

②管理会計、コスト分析、財務分野

募集人員 教授、教授（テニュアトラック）、准教授、准教授（テニュアトラック）、専任講師、または、講師（テニュアトラック）1名

所属 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科／
創造理工学研究科 経営デザイン専攻

研究分野 管理会計、コスト分析、財務に関連する研究分野（管理会計、財務、経済性工学、原価管理、原価企画、金融工学など）

着任時期 2025年4月1日

応募締切 2024年7月31日(木)23：59

詳細 ①統計科学、応用統計学分野

<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?id=D124051415>

②管理会計、コスト分析、財務分野

<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?id=D124051419>

ANQ Congress Yokohama 2024 開催ご案内 参加のお勧め

2024年9月16日(月)～20日(金)に慶應義塾大学 矢上キャンパスにて、ANQ Congress Yokohama 2024が開催されます。ふるってご参加ください。

テーマ：Prosperity through Quality

—Returning to Origins, Leaping into the Future—

日時：2024年9月16日(月)～20日(金)

会場：慶應義塾大学 矢上キャンパス

申込先：<https://pub.confite.atlas.jp/en/event/anq2024>

参加費：7月15日(月)まで 37,500円

7月16日(火)以降 45,000円

*発表者は各7,500円割引

行 事 案 内

●第152回講演会（関西）

テーマ：人材育成と品質不正の防止

日時：2024年6月25日(火)13:30～16:45

会場：日科技連 大阪事務所内 研修室
およびオンライン (Zoomミーティング)

プログラム：

事実に基づいて考え、判断できる技術

猪原 正守 氏 (大阪電気通信大学)

KOBELCOグループの品質への取り組み

～KOBELCO TQM活動～

輿石 房樹 氏 (神戸製鋼所)

詳細・申込：<https://jsqc.org/152lecture/>

●管理技術部会 第11回知識共有／勉強会

テーマ：トラブル未然防止のための知識の構造化

日時：2024年6月26日(火)17:00～18:30

会場：オンライン (Zoomミーティング)

講師：田村 泰彦 氏 (構造化知識研究所)

詳細・申込：<https://forms.gle/qv2MvYVxmxnySX4R7>

●第445回事業所見学会（東日本）

テーマ：トヨタグループの小型車両の生産拠点であるトヨタ自動車東日本の工場を、現地現物で見ていただきます

日時：2024年6月28日(金)12:00～17:30

見学先：トヨタ自動車東日本(株)大衡工場

(宮城県黒川郡大衡村)

定員：20名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

詳細：<https://jsqc.org/445visit/>

●第182回シンポジウム（中部）

テーマ：「お客様と共に取組む価値創造」を考える

日時：2024年7月8日(月)13:30～16:30

会場：オンライン (Zoomウェビナー)

プログラム：

基調講演：サービスエクセレンス実践編

～優れたサービスのデザインと効果

的な手法の解説～

4/JUNE 2024, No.413

原 辰徳 氏 (東京大学)

事例講演：シンプルで温かく誠実なサービスの実現2

戸田 健太郎 氏、井上 弥緑 氏

(スカイマーク)

事例講演：コニカミノルタにおける強

固な顧客エンゲージメント構築のため

の「プロセス」と「事例」のご紹介

宮澤 恵美 氏 (コニカミノルタ)

パネル討論

コーディネーター：下野 僚子 氏 (早稲田大学)

パネラー：上記講演者

詳細・申込：<https://jsqc.org/182sympo/>

●JSQC規格「日常管理の指針」講習会

日時：2024年7月11日(木)13:30～17:30

会場：オンライン (Zoomミーティング)

講師：古谷 健夫 氏 (クオリティクリエーション)

詳細・申込：https://jsqc.org/std32-001_2024/

●第444回事業所見学会（関西）

テーマ：新日本理化株式会社 京都R&Dセンターについて

日時：2024年7月26日(金)14:00～16:35

見学先：新日本理化(株)京都R&Dセンター

(京都府相楽郡精華町)

定員：40名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

詳細：<https://jsqc.org/444visit/>

●第151回講演会（中部）

テーマ：ブリヂストンのDXを支えるソ

リューション品質管理の取り組み

日時：2024年7月26日(金)13:30～15:15

会場：オンライン (Zoomウェビナー)

講演者：西崎 友康 氏 (ブリヂストン)

詳細・申込：<https://jsqc.org/151lecture/>

代議員・役員選挙告示

日本品質管理学会第54年度～第55年度 (2024年11月9日総会～2026年総会)の代議員ならびに役員選挙を次の日程で行います。

立候補・推薦受付：

6月20日(木)～30日(日)

投票期間：8月1日(木)～31日(土)

開票日：9月12日(木)

●第147回講演会（東日本）

テーマ：それは、TQMに関する誤解です！

—誤解・疑問を解き明かし、TQMの

ポテンシャルを100%引き出して経営

パフォーマンス向上につなげる—

日時：2024年7月29日(月)13:15～17:35

会場：日科技連 東高円寺ビル2階講堂

プログラム：

誤解を紐解く解説—その1

1) TQMに関する23の誤解/2) 品質

管理をやっても儲からない (誤解12)

金子 雅明 氏 (東海大学)

誤解を紐解く解説—その2

1) 顧客満足のために、何でもお客様の

言うとおりにすべきなのか (誤解3)

/2) 品質管理で顧客価値創造ができる

のか (誤解14)

平林 良人 氏 (テクノファ)

だから今こそ魂の入ったTQMに

飯塚 悦功 氏 (東京大学)

質疑応答

詳細・申込：<https://jsqc.org/147lecture/>

事 務 局

JSQCホームページ：<https://jsqc.org/>

本部：E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org